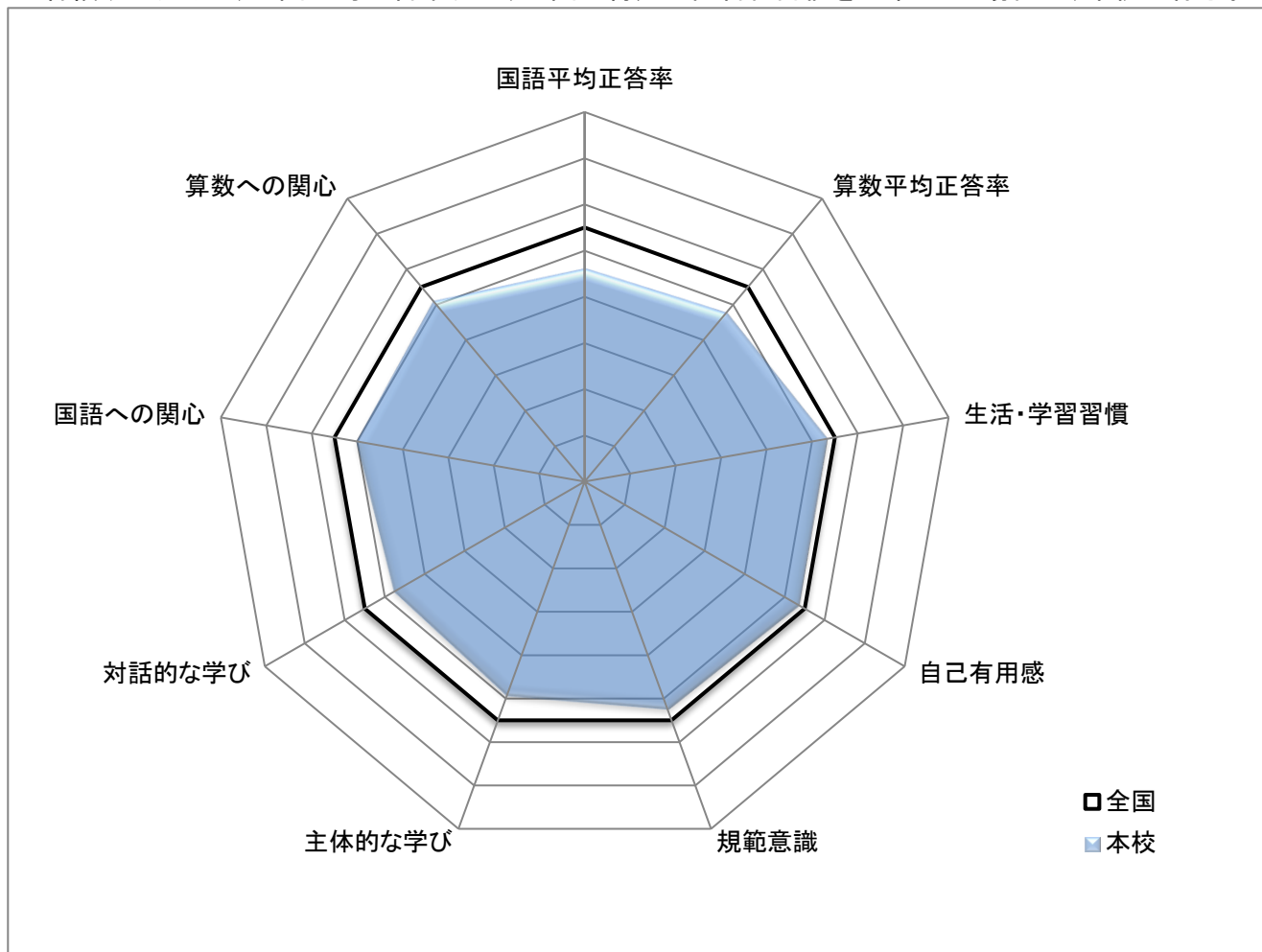


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

○いじめはどんな理由があってもいけなく、人の役に立つ人になりたいと思っている児童が多い。  
 ○国語や算数の学習を大切に、将来社会に出た時に役に立つと思っている児童は多いが、各教科の学習を理解できている児童となると、少なくなる。  
 ○課題解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいくことが難しい児童が多い。  
 ○対話的な学びでは、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることが苦手な児童が多い。

《授業改善のポイント》

○国語や算数の正答率を上げるには、各教科への関心が高くないとできないため、関心を高めるような導入や展開を取り入れていく。  
 ○各教科で対話的な学びができるように、多様な対話方法を工夫する。それにより、自分の意見と比べながら友達の意見を聞いたり、友達の意見を聞いて「なるほど」と思ったり参考にしたりして、友達の意見を自分の考えに生かすことができるようにする。  
 ○自己有用感が高めの児童が多いため、スモールステップで認め褒めながら、授業を展開していく。

《チャートの特徴》

○いずれの項目も、全国基準を下回っている。  
 ○生活・学習習慣、自己有用感、規範意識は、全国基準より下回ってはいるが、他の項目と比べると全国基準に近い。  
 ○国語平均正答率、算数平均正答率は大きく下回り、対話的な学びが次いで下回っている。  
 ○国語・算数への関心、主体的な学びは、細目を見ると上回っているものもある。

《家庭・地域への働きかけ》

○個人面談や通知表などで、成果と課題を共有していく。  
 ○算数では、ベーシックドリルの結果を受けて、放課後補習及びスキリタイムを有効活用する。